

# 巻頭言

## 日本の産業界の再生を願う

日本油化学会 関西支部長 矢野 進



日本精化は海外の生産拠点として中国の四川省と江蘇省に子会社があります。私は両社の董事長を兼務しているため、10年ほど前から年に3~4回ほど中国へ出張しています。

そのため、現地で中国の方々あるいは文化と接触する機会が数多くあります。

毎回中国を訪れるたびに急速な進歩には驚きます。10年程前には単一的な服装で自転車に乗る労働者を見かけることもありましたが、現在の服装は日本人と遜色なく“とてもお洒落で活動的”です。乗り物も自動車に変わり、めったに日本では見かけない高級外車が市内を走っています。また夜の中華料理での宴席においても昔は中国酒で乾杯というスタイルでしたが、最近では赤ワインで乾杯する宴席も増え、さすがに米国に次ぐGDP大国であると感じます。一方で、今もあまり変化がないのは、彼ら自身が自国製の製品を好まないという点です。そのせいもあって「次回中国に来るときに、日本製の時計やカメラを買ってきて欲しい」と頼まれる事があります。少しばかり面倒に思うと同時に日本人としての自意識を刺激されます。それは高い技術力に基づいた「made in Japan」への彼らの憧れを肌で感じることが出来るからです。

しかし、最近中国の方と接して、日本を見る目や付き合いの姿勢が少し変わってきたような印象を受けます。中国には日本に留学経験がある方、日本人と接触する機会が多い方々を中心に親日的な考えを持った方も多数存在しています。それらの方々だけでなく多くの人々から、なんらかの尊敬を受けていたように思うのですが、最近はその敬意の部分が希薄になってきたよう感じることで、その変化は、福島原子力発電所事故(2011.3.11)や大手家電メーカーの業績が低迷した(2012年)前後から顕著になったように思います。過去には技術立国日本というまるで神話化された部分があったのではないのでしょうか? 技術力の高さや物づくりの強さが本来の日本

の有り様だと思う方は国内外にも多いですし、逆にその部分が陰ると日本に対する魅力がなくなってくるように思います。日本の技術力に対して敬意を払ってもらうことで、彼らが日本と付き合う必要があると認識してもらうことはとても重要なことだと思います。

現在の日本経済は多様化する国際社会の中で、好むと好まざるに拘わらず巨大市場を持つ中国との関わりなくして維持、成長は困難であると言わざるを得ません。したたかな中国と向き合い今後関係を改善していくには、日本の強み、つまり技術面での優位性を一層堅固とすることが不可欠です。

また、コンピューター、半導体や情報端末を扱っている会社が、情報ソフト面へ特化してゆくことも残念に思います。技術はソフトではなくハードによって支えられてきましたし、日本の産業界の中において今後もそうあって欲しいと切に願っています。全産業の基盤を支える化学技術の発展により材料が進化し、様々な新しい製品が作り出されることで、豊かな生活を送ることを可能にしてきたと言っても過言ではないと思います。物づくりの強さを回復させ、再度信頼される第一人者となることが資源の乏しい日本の目指すべき方向だと信じております。

欧米に学んだ合理的な会社経営も大切ですが、「会社に所属するメンバーが愛社精神を持ち、創意工夫し、絶え間ないコストダウンを行い、より良い品を作ろうと愚直なまでに努力する」これが本来の日本メーカーの在り方だと思うのです。

我々油化学会も油脂、脂質、界面活性剤等に関する科学と技術の進歩を図り、産業の発展および生活と健康の向上に寄与することを目的に設立されておりますので、技術立国としての日本の復興、そして安全で豊かな生活の実現を目指す日本の産業界の一翼を担っていかねばならないと思っています。

(日本精化株式会社 代表取締役社長)